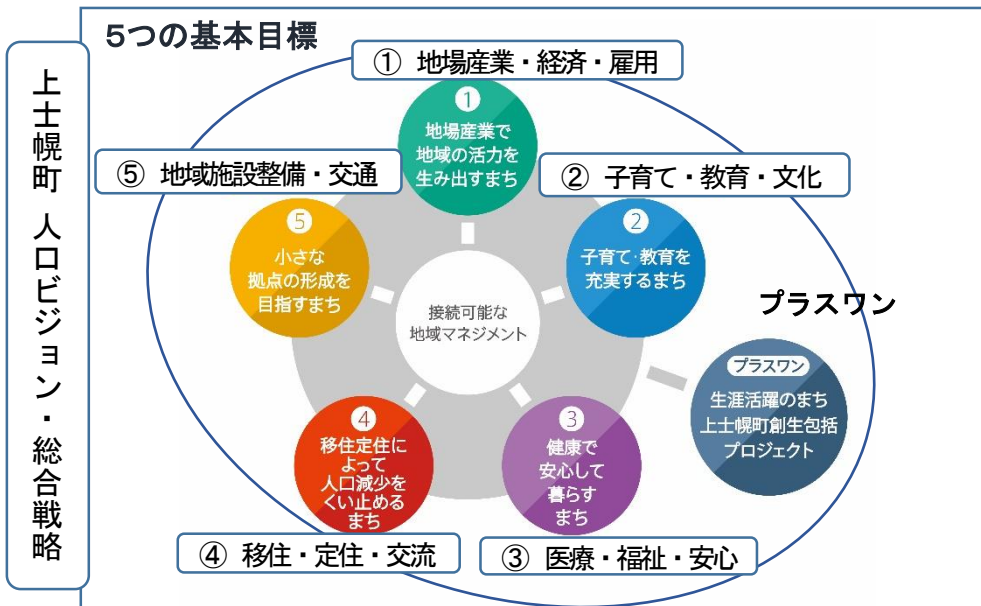


生涯活躍のまち 上士幌町創生包括プロジェクトの背景と方向性

■国の「生涯活躍のまち」構想を踏まえ、上士幌独自の「生涯活躍のまち」を創造することによって、人口減少を抑制し、地域経済の活性化を図る。その重点施策は「健康寿命の延伸」である。



上士幌町
人口ビジョン・
総合戦略

国の
地方創生
生涯活躍のまち
総合戦略・
構想

■まち・ひと・しごと創生総合戦略（2016改訂版）全体像

<地方創生をめぐる現状認識>

- ◎人口減少の現状
- ◎東京一極集中傾向の加速化
- ◎地域経済の格差(東京圏との「稼ぐ力」の差)

地方創生の深化に向けた施策の推進(政策パッケージ)

■生涯活躍のまち〈日本版CCRC〉構想

◎地方創生の観点から、中高年齢者が希望に応じて地方や「まちなか」に移り住み、地域の住民(多世代)と交流しながら、健康でアクティブな生活を送り、必要に応じて医療・介護を受けることができる地域づくりを目指す。

■上士幌町の方向性

- ・平成27年(2015年)まち、ひと、しごと創生法第10条に基づいて「上士幌町人口ビジョン・総合戦略」を策定した。
- ・「人口減少」と「創生」に対して平成27年度(2015年度)を初年度とする5年間に取るべき重点施策(5つの基本目標)をあげた。
- ・町の創生を包括するプロジェクトとして大都市圏域に居住する40~50歳代のシニア層や高齢者が上士幌町に移し、元気でゆとりある老後を過ごす「生涯活躍のまち」の構築をプラスワンの目標として掲げた。

事業主体の形成、交付金や制度の活用

政策パッケージ

1. 地方に仕事をつくり、安心して働けるようにする
2. 地方への新しいひとの流れをつくる
3. 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
4. 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

支援する取組

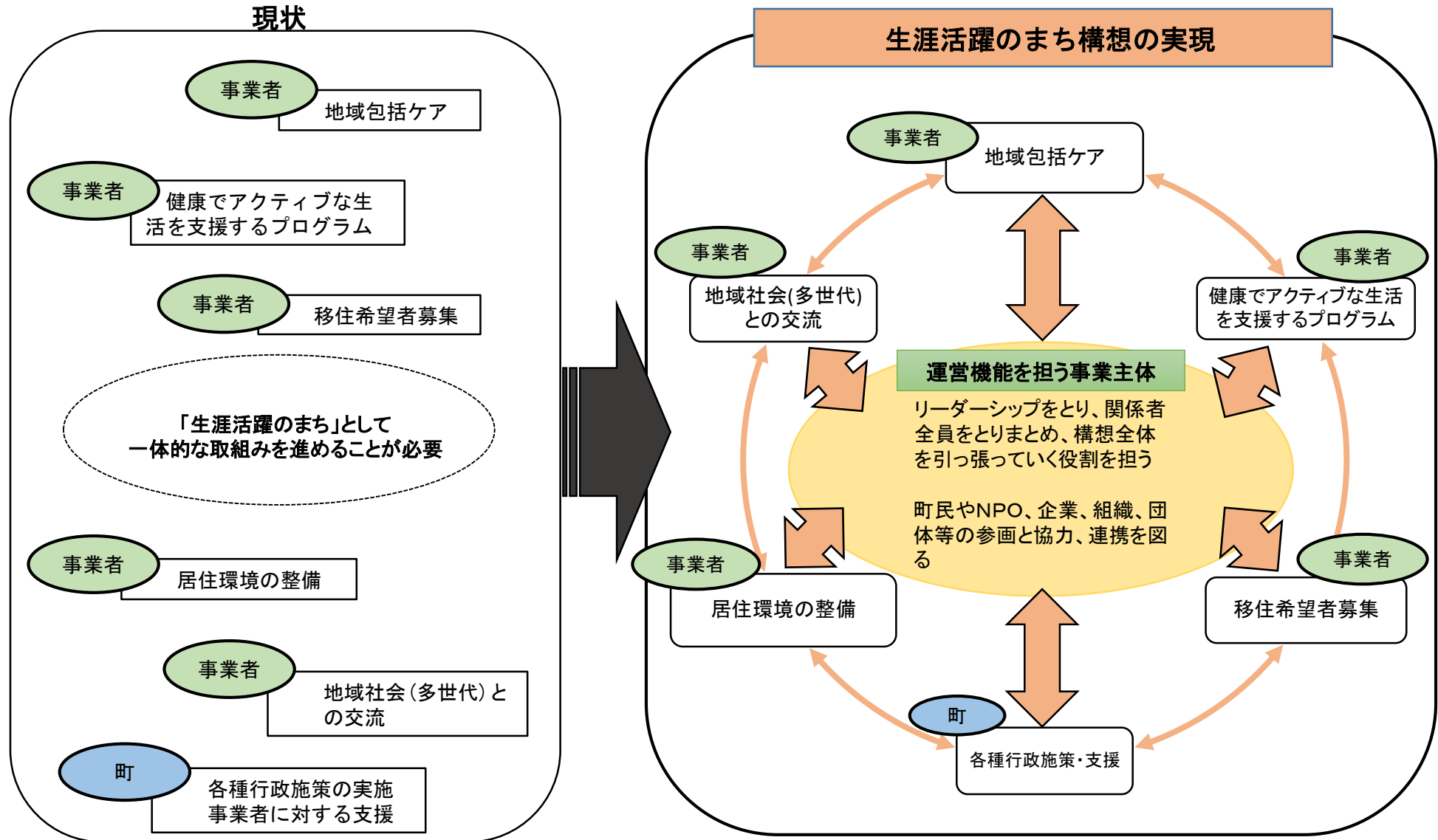
1. 中高年齢者の希望に応じた住替えの支援
2. 「健康でアクティブな生活」の実現
3. 地域住民(多世代)との協働
4. 「継続的なケア」の確保
5. 地域包括ケアシステムとの連携

5つの基本目標とそれに伴うさまざまな施策に「生涯活躍のまち」の理念を取り入れた包括的な推進を図ることで、未だ、どの自治体も実現していない「生涯活躍のまち」成功モデルを創造するべく、取組みを進める。

「生涯活躍のまち」推進に向けた事業主体の必要性

■国、地方自治体及び運営機能を担う事業主体が役割分担と連携を図り、「生涯活躍のまち」の実現を図る。

■「生涯活躍のまち」は地域包括ケア、移住、住まい、コミュニティづくりに関し、公益性の高い事業や非営利事業が多岐にわたって実施される。町や事業者がこれら全ての事業を単独で実施することは困難であり、まちづくりの推進を担う事業主体が、町や事業者・団体等と連携・協力して一体的に事業を展開する。



「生涯活躍のまち」の基本方針

■住民が、安心・安全に守られ、健康で、最後まで自分らしく生きられるよう、生きがいをもって生涯を送ることができる地域コミュニティの創造を目標とする。生涯活躍のまちを進める3本の柱を軸に、6つの取組みテーマと方針を設定し、取組みを推進する。

「生涯活躍のまち」の柱 1

地域包括ケア

「生涯活躍のまち」の柱 2

移住

「生涯活躍のまち」の柱 3

高齢者向け住宅

(サービス付き高齢者向け住宅等)

テーマ1. 安心して住めるまち

医療・介護を含め、広い意味で、地域全体を包括的に整備して行こうとするテーマである。心身の安心が図られ、孫子の代までも住み続けたい上士幌町であるために、何が必要かを細部にわたって問い、結果を積み上げていく。

- 【方針】 ①日本トップクラスの地域包括ケアの実現
②介護等に係る人材育成

テーマ3. 健康に暮らせるまち

「食」と「運動」を重視し、上士幌町民の健康意識を高めると共に、誰もが気軽に健康づくりに取組み、1年を通して楽しみながら「健康寿命の延伸」を実現して行けるまちづくりをめざす。

- 【方針】 ①健康維持等に関する相談対応の充実（個々の状況に応じた体操やトレーニング等のプログラムの作成や抗酸化食品による老化抑止の提案等）
②冬でも体づくりができるまちの形成

テーマ5. やりがいが見つけられるまち

一人一人が、人生の最後まで自分らしく暮らし続けるために、また、社会の中で必要とされる喜びをいつまでも持ち続けられるために、やりがいのある環境づくりに取り組む。

- 【方針】 ①就業、就労の機会の創出
②障がい者の働く場の創出（農業分野と福祉分野の連携等）

テーマ2. 円滑に生活を送れるまち

子どもや高齢者、障がいのある方がスムーズに移動でき、暮らしに関わるさまざまな事柄をひとりでも、自立して滞りなく行えるための日常的な生活環境を構築する。

- 【方針】 ①自立した居住者が冬季でも自由に移動ができるまちの形成
②身近なところで日常的な買い物ができるまちの形成
③いざという時にも安心な配食サービスの提供
④グループホーム等障がい者の住まいの確保

テーマ4. 豊かな生活を送れるまち

人とのふれあいや、さまざまな芸術文化に接する機会等を通して、日常的に豊かさを感じられる「生涯活躍のまち」の核を創出する。

- 【方針】 ①ふれあいプラザ・交通拠点を中心とした新しい価値の付加と充実
②生涯学習センターを活用した趣味等の実現

テーマ6. 移住したくなるまち

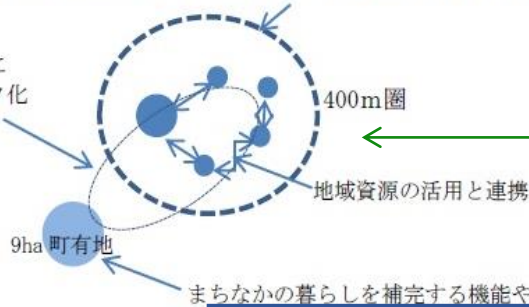
町民のすべてが、上士幌町に住み続けたい、住みやすいと感じられる幸福度の高いまちづくりを進める。どこよりも魅力あふれる、地域力のあるまちとなることが、町外の人達の大きな求心力となり、移住の原動力となる。

- 【方針】 ①都市部等への移住に関する情報発信
②住まいの整備等による移住体制の充実
③就業機会の確保・提供
④質の高い子育て・教育環境の提供

「まちなか」における生涯活躍のまちの推進

徒歩生活圏（半径 400m）を「一つの家」=HOME とするコミュニティ再生

地域交通の強化によるネットワーク化及び機能の連携



まちなかの暮らしを補完する機能や空間を導入

第1段階の事業

まちなかの資源が豊富な、役場を中心とする半径400m圏内で「生涯活躍のまち」の基本形をつくる。

これを先導事業として、第1段階のまちづくりを展開しつつ、町全体にわたる事業拡大を連鎖的に図って行く。

第2段階の事業

「まちなか生涯活躍のまち」を補完する機能として位置づける。さらに、町の活力を維持して行くためには、今後も積極的に移住促進を進めることとし、移住者受入や住民との多世代交流拠点として9ha町有地の活用を検討する。

「まちなか生涯活躍のまち」の構成要素

- 1) 安心・安全拠点<まちなか+福祉ゾーン>
- 2) 多世代交流拠点<子育て・スポーツゾーン>
- 3) 生きがい・修学・レクリエーション拠点<教育（文化・芸術）ゾーン>
- 4) 商業・まちなか居住拠点<商店街エリア>
- 5) 交通拠点<交通ネットワークシステム>

- 徒歩生活圏内を「一つ（ひとつ）の家」とする温かい地域コミュニティの形成を目指す。
- それぞれの拠点を連携させて利活用を推進するソフトの整備により、町民にとっての居場所や生きがい、健康づくり等の楽しみを創出する。
- 時間・空間・目的そして人間関係のつながりによって、多くの世代間交流が生まれ、新しいコミュニティとなる。

